1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 1 月 21 日発行　SSKU　増刊通巻第 6327 号

NPO 法人わくわくかん
編集　〒115-0044
東京都北区赤羽南 2-6-6
TEL:03-3598-3337

シャケ Zo くん

SSKU わくわくかん リボン便り

http://www.wakuwakukan.net/

2019 年 2 月号 No.215

？？なぜリボン？？

生まれ変わった
再生したという意味の
（Reborn）。
新しく生まれ変わる
「便り」にしたくて、名付けました。

“誰も置き去りにしない”

SDGs の接続可能な 17 目標に関心が

「誰も置き去りにしない社会の実現をめざして」という言葉を掲げた SDGs の運動が今、大変注目を浴びています。こんなに注目を集めるようになったのは 17 の図形（下図）のシンプルさのわかりやすさ、多様な実践の入口があることでしょう。

金儲けのグローバリゼーションのために社会がすっかり貧富の格差が広がり、人びとが夢や理想を失う中で、国連では 2015 年、「持続可能な開発に関するサミット」を開催し、15 年間かけての「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を採択しています。2030 年に向けた「持続可能な開発・発展のための目標」に国際社会は合意したのです。そのために、私たち市民がなすべきことを提起し、達成すべき 17 目標の（ゴール）と 169 のターゲットを定めています。

SDG s は、これまでの人間中心主義ともいえる限度の無い経済活動を抑制し、経済成長、環境保全、社会包括の 3 つがバランスする持続可能な社会への変革をめざしています。

グローバルからローカルまですべての国や自治体、一人ひとりの市民や NGO、団体・組織、民間企業等、そして行政機関が連携し、「持続可能であること」の意義を共有し、その実現に向けてともに考え、評価し、行動に結びつけていくことが求められています。その合言葉に「誰も置き去りにしない社会の実現をめざす」とされているのです。

神奈川では 12 月 4 日、関内ホールで”未来世代のために持続可能な社会(SDGs) への「非営利・協同」の取り組み”が古沢広祐國學院大学教授の基調報告に始まり労福協、生活クラブ、県協同組合連絡協議会から「持続可能な責任ある生産と消費」をテーマに論じられました。

神奈川県では、他都道府県に先行して、労働運動と協同組合運動の連携が進み、地域のさまざまな社会運動をバックアップしたり、連携しあうことが進んでいます。

古沢教授は、未来社会のために接続可能な社会(SDGs)への「非営利・協同」の取り組みの重要性に触れるとともに、最後に「誰も置き去りにしない社会」には、今、何が必要かと会場発言を、共同連に求められました。

それに対し、「日本社会は、さまざまな福祉制度があるが、健常者目線の＜支援＞型制度ばかりで、当時者の立場に立つ＜共生＞型制度がないことでは」と発言がありました。

最も困難な人々は、神奈川の「津久井やまゆり園事件」に見られるように隔離されている差別の大型精神病院の施設が黙認されている社会構造の中にいます。イタリア社会協同組合 B 型のように、地域で暮らすことが最上の治療ということが確認され、開放される社会の実現に向けての具体的な問題解決型の行動目標が求められています。

＜わくわくかん 2 月予定表＞

- ✧　2 月 02 日（土）リボーンプロジェクト OB 会 13:30~ 障害者福祉センター4 階
- ✧　2 月 09 日（土）はたらっくす 16:00~ （自立訓練室）
- ✧　2 月 10 日（日）認定 NPO 麦の会・コッペ 30 周年 13:00~ 仙台サンプラザ
- ✧　2 月 16～17 日　第 5 回ソーシャルファームサミット ソーシャルシティー大阪
- ✧　2 月 20 日（水）東京都精神保健福祉相談事業講演会 精神障害者と家族 14:00~ 都民ホール
- ✧　2 月 25 日（月）現場協議会 16:30~ （スカイブリッジ）
- ✧　2 月 26 日（火）家族懇談会 16:00~ （自立訓練室）

1998 年 10 月 9 日　第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 1 月 21 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6327 号

わくわく配食サービス

就労継続支援 A 型事業
北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-0089
FAX：03-3598-0089

はまぐりの香草焼き

材料（二人分）

はまぐり（大）----------4 個
白ワイン ----------大さじ 2
ブロッコリー ----------4 房
パン粉 ---------- 四分の一カップ
パセリみじん切り ----------大さじ 1
すりおろしにんにく ---------- 少々
オリーブオイル -------大さじ 1 と 1/2
おしょうゆ ----------小さじ 1

作り方

① はまぐりは塩水につけて砂抜きし、からの汚れを流水でこすり洗いする。
② 鍋にはまぐりと白ワインをいれ、ふたをして蒸し煮にする。
③ 殻が開いたら取り出して身のないほうの殻をとる。
④ ブロッコリーは塩少々を加えた熱湯でさっとゆで、1 房を2～3等分する。
⑤ パン粉にパセリ、ニンニク、オリーブオイル、醤油を混ぜる
⑥ 天板にアルミホイルをくしゃくしゃにして敷き、はまぐりとブロッコリーをのせ、オーブントースターで2～3分焼き、焦げ目をつけ器に盛り付ける。

はまぐりの香草焼き

まだまだ寒い日が続いていますが、暦の上では立春です。この時期はなんといっても貝が美味しい季節！今回はハマグリの簡単料理です。

ハマグリはタウリンのほか、鉄分や亜鉛などのミネラルを多く含んでいて、コレステロールをさげ、動脈硬化や高血圧症を予防する効果や滋養強壮にも効果があると言われています。また、鉄分を多く含んでいるので貧血気味の方にはとくにお勧めです。

わくわく配食サービスのイベントの参加

違う活気や楽しい雰囲気、数日前や早朝の仕込み

わくわく配食サービスは、主にお弁当を作り地域の方々に配達して収入を得ていますが、もう一つの収入源は、イベント販売での焼き菓子（パウンドケーキ、クッキー）や焼きそば、おにぎりセット、あからげ、フライドポテト、アクリルタワシやマスコットなど手作り小物を販売しています。どれも、100 円～200 円お買い得な商品です。

イベントは、北区や社会福祉協議会が主催するイベントや板橋区の障がい者施設などです。イベントによっては、パウンドケーキを 200 個、クッキーを 200 袋など一度に作るには、大変な量になることもあります。厨房の中は、イベントの数日前から普段のお弁当の仕込み以外にも、大量の卵やバターなど準備をしないといけない状況です。

厨房では、普段はお弁当容器洗浄や厨房の清掃など行っている当事者の方もお菓子作りを手伝ってもらっています。いつもとは、違う活気がありなんとなく楽しい雰囲気を私は感じます。販売前日には、厨房から甘い香りが漂ってきます。調理の方は、お昼が遅くなったりと大忙しの日になります。少しずつ味見もでき、味見を楽しみにしている方も…。

また、イベント当日は、お弁当を作ることに加えて「おにぎりや焼きそば…」など朝に作る商品もあるため、いつもより 1 時間～2 時間はより早く出勤しなくていけないので大変ですが、「すぐに売り切れました。一度は買いたかった。楽しみにしていた。…」というお客様の声は、とてもありがたくうれしいことです。何より、わくわく配食サービスを知っていただく機会になるので重ねてありがたいことです。出来れば、そうした商品を移動販売車でも販売できると良いと一人で考えています。

もし、どのかのイベントでわくわく配食サービスの商品を見かけたら一度ご購入いただければ幸いです。

1998 年 10 月 9 日　第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 1 月 21 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6327 号

自立訓練（生活訓練）事業 ボランティア響会

通称 響（ひびき）

〒114-0032　北区中十条 1-2-18
北区障害者福祉センター4F
TEL 03-5963-6888

外出報告　企業組合あうん見学

「こんな仕事があるんだ！」「目の付けどころが違う！」

企業組合あうんとは、荒川区でホームレスの仕事づくりに始まってニートの若者やシングルマザーが頑張る職場。仕事の内容は施設に入ってしまった方や亡くなった方の生活用品を修理してリサイクルショップを運営したり、引っ越し・かたずけなどを職務としており、便利屋あうんとして成り立っています。また地域に愛され、年に１度イベントを公園で開いたりしています。

僕が一番印象に残ったのはリサイクルショップ。中古の物がまるで新品のようにならべてあります。現場（家庭や企業など）から商品になるまでの様子を当事業所とあうんの W さんが論理的に説明してくださいました。

“物を大切に扱う”と実感しました。

また最後にあうん代表の A さんから成り立ちを伺いみんなで鍋をかこみました。僕は４杯もおかわりしました。塩味の野菜や魚、肉に現場にあったといわれる七味をかけて大変美味しくいただきました。ちなみにあうんのメンバーさんたちには天ぷらとカツ煮までついていたようです。

たくさん働いてたくさん食べる。皆様にとてもいい刺激をいただいた１日でした。　（S.Y）

忘年会～ハンドベルやゲーム～

12 月 19 日水曜日、18 時から 20 時迄、赤羽会館にて「わくわくかん」全体の忘年会がありました。

今年は唐揚げ、エビのチリソース等オードブルの他に寿司、ピザが用意される、とても豪華なメニューでした。開会の挨拶、乾杯の後、歌が披露され、食事タイム。

ひと通り食べ終わった所でいよいよハンドベルの出番。「おめでとうクリスマス」「赤鼻のトナカイ」「よろこびの歌」の順に演奏。この日迄、音楽室で練習してきたので大きなミスも無く、無事終了となりました。

最後は恒例のビンゴゲーム。当選者が複数出た時には商品を譲り合う等、和気藹々とした雰囲気でした。一本締めで閉会。皆で片付けをして終了。お土産にパウンドケーキまで頂き、とても満足のいく忘年会でした。（Y.H）

2019 年の抱負

- 新しいこと、新しい場所、どんどんチャレンジしていきたいと思います。（F.A）
- 通所日を増やしたい（S.M）
- 苦手なことから逃げず果敢に挑戦すること（N.M）
- 今年も楽しくやりましょう（N.I）
- 早い段階で、今後就労移行へ進むか、A 型に進むか決断したい（Y.H）
- 就労をする（S.M）
- 響をもっと楽しく！響をもっと明るく！前向きな場所にする！したい！！（K.Y）
- 成長する（M.T）
- 心機一転（S.M）

クリスマス会～プレゼント交換も

待ちに待ったクリスマス会。メニューを決め、（ケーキはスポンジケーキを購入してクリームとイチゴで自作）冷凍のものは前日に購入し、準備万端。さて当日、生鮮食料品を買い出し、調理開始。各自、担当の持ち場に付き、調理開始。

私と H さんは、唐揚げで部屋のすみでひたすら鶏の唐揚げとポテトを揚げまくり。ホワイトボードの向こうが、どのくらいカラフルになってるか想像してました。さて、調理が終わって盛り付け、配膳。メリークリスマス！！

男二人がデコレーションしたケーキのレベル高！　キレイだし、料理もおいしいし、ボリュームも調度良し！　たのしい食事会になりました。その後は、ゲーム大会。ババ抜き最弱王決定戦。いろいろ言いわけを言ってましたが、W さんが最弱王に決定！

プレゼント交換は、ビンゴでくじ引き。いろいろなプレゼントの種類に盛り上がりました。最後に後かたずけを皆でやり、お開き。楽しい１日を過ごせました。

新メンバーからのお話

私が響の正式利用は 12 月から始まりました。

12 月はクリスマス会や忘年会・あうん見学・大掃除など特殊なイベントが盛りだくさんの月でした。いい経験になりました。来年は自分にとってもっといい年にしていきたいです。　（M.T）

1998 年 10 月 9 日 第三種郵便物認可 （毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 1 月 21 日発行 SSKU 増刊通巻第 6327 号

就労移行支援事業

リボーンプロジェクト

〒114-0032 東京都北区中十条 1－2－18
北区障害者福祉センター４F Tel：03-5963-6888

体力づくり～王子神社へ初詣～

リボーンプロジェクトでは、毎週火曜日に研修プログラムを行っています。普段はビジネスマナーやコミュニケーションスキルを学んでいるのですが、今年最初の研修は体力づくりも兼ねて初詣に行ってきました。

まずは王子神社にお参りをします。厳かな雰囲気の中、皆さん真剣にお願いをされている様子でした。その後、王子稲荷神社にも足を運びました。拝殿の奥には“願掛けの石”（写真）があり、願いを念じながら石を持ち「その時に想像より軽ければ願いは叶いやすく、重く感じれば努力が必要」とのことでした。かなり重い石で、男性陣は持ち上げられたものの女性陣は苦戦しました。今年の願いや目標をあらためて思い返し、一歩を踏み出す良い機会になりました。

＜感想＞

・寒かったですが、みんなでお正月気分を味わえてよかったです。今年は王子稲荷神社にも行けて、願い事を考えながら岩をもちあげられるかという、おもしろいものがあり、みんなで順番にもちあげました。すごく重く感じ、まだまだ努力が足りないと思いました。

・王子神社は毎年元日の朝早くに参っていますが、王子稲荷まではなかなか行くこともなく、奥の方まで見ることができ良かったです。

・今年初詣に行けていなかったので、今日行けてよかったです。

・お願いをしましたが最後に気をつけて行きたいです。

大忙しの仕事納め

リボーンプロジェクトの 12 月は通常業務に加え、障害者作品展の準備や参加、年賀状のイラスト作成や発送の準備、法人の全体忘年会の設営と参加、大掃除など。とても忙しい月となりました。

そして、28 日が仕事納めとなりました。リボーンプロジェクトでは、毎年、仕事納めの日はイベントを行っています。

今年は、副理事長の堀会長にお越しいただき、1 年の労をねぎらう茶話会を開催いたしました。茶話会はお菓子と飲み物を用意して、いつもより少しリラックスした雰囲気で行っています。

まずは堀会長から一言、ねぎらいの話があり、続いて、皆さんの一年を振り返ってもらいました。それぞれ、次のような事がありました。1 月 4 日から就職するのでがんばりたい。一年、職員の方に支援してもらい感謝しています。現在も就職活動をがんばっています。10 月までは忙しく、反動が 11 月にあり、12 月にやっと復活できました。

後半はメンバーおすすめのカードゲーム、ナンジャモンジャゲームを行いました。これは、カードのキャラクターに名前を付けて、次に出た時にその名前を叫ぶというもので、記憶力と俊敏性が大切なゲームです。とても盛り上がり、日頃は物静かな方がはしゃいでいたり、普段からは想像できないネーミングセンスを発揮される方もいたりしました。

最後に来年の抱負を語って頂きました。入職したら 1 ヶ月間研修なので励みたい。来年もより多く学んでいきたい。就職を勝ち取る。来年もいつも通りに過ごして健康でいたい。

最後に一本締めを行い、今年最後の業務を締めくくりました。 (H.Y)

1998 年 10 月 9 日 第三種郵便物認可 （毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 1 月 21 日発行 SSKU 増刊通巻第 6327 号

第 11 回 わくわくかん 家族懇談会のお知らせ

開催日時： 2019年２月26日（火）16:00～
場　　所： 障害者福祉センター4 階　自立訓練室
内　　容： 就労シリーズ③「事業所見学」わくわく配食サービス見学
個人面談： ※（事前にお申し込みを）17:00～
連 絡 先： TEL　03−5963−6888　FAX　03−3906−9997

リボーンプロジェクトと響（自立）の両者を活かそう！

副理事長　堀 利和

先月 21 日の現場協議会でのみんなの真剣な議論を聞きながら、私が以前より考えていたことをここに提案します。

1 情報発信の仕方

あらゆる、またはどんな媒体を使って情報（募集）発信するかです。また、その情報の発信先の整理・絞り込みです。いずれにしろ、何を、どのようにすることが最も有効かつ効果的です。

2 他との差異化を図る

就労移行では区内にある 7 ヶ所の差異化、リボーンプロジェクトの特徴、そして選ばれるためのプログラム、またＮＰＯらしいかつ福祉的な考えや取り組みを明確化することです。株式会社の就労移行は就職につながりやすい人を受け入れる傾向にあります。そんな就労移行との違いを踏まえたプログラムの体系化です。

3 リボーンプロジェクトと響の多機能化の有効性

リボーンプロジェクトの利用者の中には休んだり、午前中で帰ったりする人もいます。これは本人にとっても「もったいない」ことになるでしょう。

リボーンプロジェクトから響をもっと活用すべきです。たとえばＡコース（従来型）、Ｂコース（職業「生活」の確立）です。Ｂはいうまでもなくリボーンプロジェクトへの移行コースです。人によってはそれが 1 ヶ月、3 ヶ月、半年となります。先ずは職業「生活」の安定が重要です。

原則として、しかし硬直した対応ではなく、響Ｂコースの受け入れを前提にします。もちろんＡからＢへの変更も可能です。響の生活、リボーンプロジェクトの職業訓練の有効な連携です。

新年号の斎藤理事長の『2019 年「わくわくかん」を希望の年に！』を受けて、みんなで議論を重ねて具体化をしていきましょう。

現場からの報告（18）

職員となりまもなく 3 ケ月

わくわくかんの就労支援センターの職員となりまもなく 3 ケ月になります。

私が就労支援員になりたいと思ったのは以前の職場で障害者雇用の担当者になったことがきっかけでした。会社の従業員の人数が増え、ハローワークから障害者雇用の指導が入り、担当者として私が指名されました。

当時事務しかしていなかった私は目を白黒させながら障害者雇用に取り組みました。募集をかけるとたくさんの応募書類が届き、10 名くらいの方と面接をしました。採用を決めたのは 40 代のうつ病の男性でした。面接ではとても緊張していて、質問しても答えるのが難しい方でしたが、その方の故郷についての質問をしたときにふっと緊張がなくなり、何とも言えない笑顔で質問に答えてくれました。その人に決めたのはその時の笑顔を見て、ああこの人と一緒に働きたいな、と思ったからです。面接に同席していた人たちも同じ意見でした。

入社してからも一緒に働き、社会人生活を楽しんでいる姿を見続けているうちに就労支援の仕事につきたいと思うようになり、今にいたります。まだまだ未熟ですが、就労支援を行う中で、その人の何とも言えない笑顔を引き出せるようなお手伝いができる支援員になれればと思います。　（k）

1998 年 10 月 9 日　　第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2018 年 12 月 2 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6277 号

北わくわくかん相談事業　「就業中」の人に聞く

ズームイン

就労支援センター北わくわくかんでは、登録している方で就業中の S.G さんにインタビューしました。

＜仕事編＞

Q　なぜ今の会社に入社されたのですか？
A　国立リハビリテーションセンターの職業能力課からの紹介です。

Q　国立リハビリテーションセンターではどんな訓練？
A　クリーニング。訓練期間は 2 年と半年くらい。クリーニング事業を始める会社に入社しました。その後会社で異動をして、今はお肉の加工をしています。

Q　今の会社でのお仕事は何年間続けられていますか？
A　24 年目です。

Q　今どのようなお仕事をされていますか？
A　お肉の加工。仕分けのような感じです。

Q　どのような雰囲気の職場ですか？
A　そんなに悪くはない。黙々と仕事をしている。たまに報連相の時に声を出すことがありますね。

Q　お仕事中大変だと思うのはどんな時ですか？
A　私は上長に報連相をする立場なので、そんなに大変ではないが、冷蔵庫から原料を持ってくる時が重くて大変です。15 キロくらい。台車を片づけたり職場内の身の回りの整理整頓も大変。見本とした人間でないといけないかな。と思います。

Q　今、力を入れている仕事はありますか？
A　見本になれるような社員にならないといけないと思います。上長の負担を減らせたらいいなと思い、後輩に丁寧に仕事を教えています。

Q　嫌なことがあった時の気持ちの切り替え方は？
A　寝るしかないですよね。遊ぶって感じですかね。何かおいしいものを食べるとかそんなかんじですね。

＜プライベート編＞

Q　今後の目標は？（プライベートも含めて）
A　ヨーロッパ旅行をしたいと思う。定年迎えて、また働くとしたら自分の好きな仕事をして、旅行できたらと思います。今そういう人が増えているじゃないですか。70 歳以上でも働いている人もいますよね。
結婚もできたらしたいと思います。自分の負担も減らせますからね。

Q　ストレス発散方法は何ですか？
A　食べること。電車に乗って食べたりとか、コンサートを聴きに行ったりとかそういう（外に出る）機会があればいいなと思います。

Q　趣味は何ですか？
A　鉄道に乗りに行くことと音楽鑑賞です。

Q　好きな音楽は？
A　クラシック。家でもパソコンを使って聴くこともあります。コンサートは時間があれば行ってみたいなとは思い、時々コンサートにも行きます。

Q　一押しの鉄道はありますか？
A　最近、小田急電鉄かなぁ。
駅員の対応が丁寧。車掌のアナウンスの仕方とか。電車自体ではなく、放送とか音に特化した鉄道好きなんです。発車メロディーとかベルとか。お客様に対しての放送の対応がいいな。と思う。

Q　今まで鉄道に乗りに行ったところで　ここは最高！という場所を教えてください
A　山口県の秋芳洞です。とくに洞窟。昔海だったところで、海底火山が爆発したところ。海底が噴火してどんどん陸地ができていったみたいです。
経路は、東京から新幹線で広島まで行ってそこから乗り換えて行きました。秋芳洞は 1 時間くらいバスに乗らないといけないんです。時間があれば行きたいですね。

Q　お給料で最近、買ったものは？💰
A　パソコンとラジオです。

Q　ラジオを買ったきっかけは？
A　場所を取らないし、おもしろい。外国の洋楽も聴けるし、暇なときに聴けるから便利ですね。

Q　さいごに、今就職活動中の方へメッセージをお願いします
A　就職するのに希望がないこともあるかもしれないけど、嫌だと言ってそれをあきらめないでほしい。1 回希望がないからと言って、辞めてしまえばなかなか就職できない。
自分でやりたいこと（起業とか、ギターを買って音楽を練習してプロになるとか）があったら続けていけばいいと思う。
就職しても嫌がらず、自分が違う職場だったとしても夢を諦めないでほしい。
自分自身も鉄道関係のところに行きたかったけど、夢を諦めているわけではない。　（聞き手 k.k）

1998 年 10 月 9 日　第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 1 月 21 日発行　SSKU　増刊通巻第 6327 号

都精神保健福祉相談事業講演会

2.20「精神障害者と家族」

ーそれぞれが自立して支え合うために

2 月 20 日(水)、恒例の都精神保健福祉相談事業講演会が、都民ホールで開催されます。

精神障害者当事者とその家族は、長く、地域で自分らしい暮らしを実現するための制度的バックアップや地域生活を支える資源も乏しく、本人も身近で支える人々も疲れ果て、不本意な入退院を繰り返さざるを得ない状況に置かれてきました。2014 年の改正精神保健福祉法の施行によって、当事者“保護”の責任の負担を家族などの“保護者”に規定する「保護者制度」がようやくにして廃止され、精神保健医療福祉の“社会化”が図られるかのように思われましたが、当事者と家族の高齢化への対応など、一人一人が主体的に自分らしい生活を試みられる仕組みづくりが、いっそう求められています。当事者、家族、施策、医療、保健、福祉、それぞれが何を担えるか、今回の講演会で探ろうとの企画です。わくわくかんも会場設営などにかかわります。

講師：白石　弘己 氏
（社会福祉法人恩賜財団済生会支部、埼玉県済生会鴻巣病院、なでしこメンタルクリニック　院長）

日時：2 月 20 日(水)　講演　14：00～16：00
会場：都民ホール(東京都議会議事堂 1 階)　東京都新宿区西新宿 2-8-1　参加費：無料

書籍紹介「「当たり前」をひっくり返す」（現代書館）

＜平成＞という昼あんどんのようなぼんやりと柔かい管理社会の時代に育った私たちにとって、バザーリア、ニィリエ、フレイレの言節と実践は、“「当たり前」をひっくり返す”大事件であり、革命である。この本の三人の主人公は、忘れられてはいないか、と竹端寛が問いかけることはもっともなことだ。

ブラジルで、大地主に搾取されていた小作人たちに識字教育をするなかで、『被抑圧者の教育学』を書き、＜抑圧された側＞の主体性を取り戻す問題解決型教育の理念を世界中に拡げたパウロ・フレイレ。スウェーデンの知的障害者の入所施設における構造的問題にかかわり、「ノーマライゼーションの原理」で、施設の論理を破壊したベンクト・ニィリエ。精神病院の隔離収容構造そのものを問題視し、「自由こそ治療だ！」というスローガンの下でのイタリアの精神病院廃絶の原動力となったフランコ・バザーリア。

1968 年の学生運動やフェミニズムと並んで虐げられた人々や障がい者を地域社会に迎えた直接民主主義の熱い想いを、＜平成＞には日本には出現しなかったが、これからの社会に期待をこめた快著である。

「津久井やまゆり園事件」は「強制隔離こそが治療だ」とした日本の大型精神病院の状況に絶望した元職員によって引き起こされるたが、植松がもしバザーリアの「自由こそ治療だ！」として実施された精神病院なしの地域医療システムに進んだイタリアの施策や社会的排除にあう当事者主体の社会協同組合 B 型の実践を知っていたなら、あのような殺戮には至らなかったのではないか。

＜平成＞の柔かい管理社会を痛打
バザーリア、ニィリエ、フレイレの実践

その点で都精民協が発行した『設立 25 周年記念』誌には野村忠良前東京つくし会会長の「家族が望む精神障害者地域生活について」の貴重な発言がある。その中で「精神科病院はすべて廃止すべき」「地域に保険医療センターを」と述べられ、その理由としてイタリアのトレントとトリエステに行った体験を語っている。何よりも当事者と職員・看護士が対等であり、当事者が職員になるケースを感動的に語っている。

なぜ日本にはそれができないのか、そこには民間企業の病院の多さをあげているのも示唆的だ。　（H．k）

インタビュー調査ご協力のお願い

テーマ：「精神障がいの方々にとって『就労』とは何か

元ひびきスタッフの栗田眞紀です。現在大学院で「精神障がいの方々がいきいきと働くための支援」の研究に取り組んでいます。第一歩として、今回上記のテーマで**「インタビュー調査」**をさせていただくことになりました。現在**ご協力いただける方を募集しております。**

◆◇◆対象となる方◆◇◆
わくわくかんの利用者・元利用者の方で、一般就労のご経験がある方

→就労期間はおおむね半年以上（これまで就労した期間の合計）
→障がい者雇用枠・特例子会社・就労継続支援Ａ型での就労も対象
→**アルバイト・パート・就労継続支援Ｂ型のみの方は除きます**

＊インタビュー調査は **2019 年９月末まで実施**します。
お問い合わせ先：わくわくかん　03-5963-6888（中十条）、03-3598-3337（赤羽）

1998 年 10 月 9 日 第三種郵便物認可 （毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 1 月 21 日発行 SSKU 増刊通巻第 6327 号

投稿

季 せ つ

ウッドペッカー(グループ・ホーム)

春は桜や梅が咲き
チューリップやタンポポも咲いていて
あたたかくって入園や入学や入社があり
春は食べものも、それぞれあり
春らしさをもっている

秋はスポーツで運動会がある
読書の秋でもある。本を読むと眠くなる
秋は紅葉（こうよう）、どこまで行っても
紅葉（もみじ）や銀杏並木でキレイ

夏は暑い
夏はスイカやかき氷や
アイスとか食べられる
夏は花火で、手でもって、
花火をやったり
浴衣を着ての、夕涼みでの花火
打ち上げ花火は、夜空いっぱいに光る。
ドカーンッと

冬は寒い
冬の食べものは鍋物が一番あったまる
冬は田舎だと、雪がふると、
雪かきをしていた
冬はクリスマスで、あっちこっちで、
クリスマスをすごすだろう
クリスマスはイルミネーションがキレイ
そして、お正月を迎え
来年はどんな年になるでしょう

季せつって、日本の国であるだろう

就労支援センター北わくわくかん

登録者（2018 年 12 月末）804 名
就職者 1 人（用務 ）

先月 ご協力いただいた皆様

東京都労働局・東京都精神保健福祉民間団体協議会・北区障害福祉課・北区健康推進部・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉センター・ハローワーク王子・池袋・飯田橋・東京障害者職業センター・北区社会福祉協議会・北区教育委員会・北区精神障害者支援施設連絡会・津久井やまゆり園事件を考え続ける会・津久井やまゆり園事件を映画化する政策集団・ライフステーションワンステップかたつむり・ＮＰＯ法人障害者の職場参加をすすめる会・特定非営利活動法人太陽と緑の会・特定非営利活動法人まつさく・社会福祉法人月山福祉会・部落解放同盟神奈川県連合会横浜市協議会・東京ワーカーズコレクティブ協同組合・生活クラブ生活協同組合東京・企業組合あうん・ワーカーズコレクティブ協会・シャロームの家・オレンジコープ 等、お世話になりました。

グループホームわくわくかん

現在、男性 1 名・女性 3 名の方が入居中です。体験の方がいらっしゃっています。ある夜 22 時頃、体験者から世話人の携帯電話に「大変な事が起きました」とあったので、気が遠くなる思いで次の言葉を待ちました。「トイレの鍵が中から掛かってしまってトイレに入れません」。古い建物故、何かのはずみで鍵が中から掛かってしまったのでしょう。別室のトイレを利用頂く為に外の暗闇に隠してある鍵の有りかをお伝えし解決しましたが、本人から最後に一言「夜分遅くにお騒がせして本当にごめんなさい」。決してご本人のせいではなく、原因は古い建物にあるので、責め立てられるのを覚悟していました。体験で緊張と不安の中、夜遅くトイレが使えなくなり、暗闇で鍵を探すのはどんなに怖かった事でしょうか。にも関わらず、誰に責任転嫁する事なく謝罪の言葉をおしゃってくださったのです。是非とも本利用して頂けるよう心から応援しております。

▼編集後記▼

小雨降る寒空の日であったが、江戸時代の忘れられた思想家、安藤昌益の研究会メンバーが、千住の小塚原刑場の周辺のツアーに出かけた。集合場所は南千住回向院。そこが刑死者 20 万人を葬った小塚原刑場跡である。そこには、吉田松陰、橋本左内、頼三樹三郎、関鉄之助、多くの元水戸浪士、2.26 事件の磯部浅一の政治犯、また鼠小僧次郎吉、高橋お伝、腕の喜三郎などの河原者が眠る。刑場の死体は、丁寧に埋葬されなかったため、野犬やイタチの類が食い散らかした寂しい地であったという。常磐線からも見える首切地蔵がある。フクシマ大震災の時にはその首が転げ落ちた。杉田玄白たちの腑分け記念碑も立っている。そこから千住大橋を渡って、芭蕉が「奥の細道」に旅立った矢立て初めの碑を見た。安藤昌益の『自然真営道』発見の地である内田銀蔵生誕の地や慈眼寺の『自然真営道』旧蔵者・橋本律蔵の墓をめぐった。そして「やっちゃ場」として知られる旧商家の街並みを歩いた。

発行所 郵便番号 157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 定価 100 円（会費に含む）